

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	O670800473		
法人名	NPO法人あらた		
事業所名	グループホーム「民間介護の家たくせい」		
所在地	酒田市北新町一丁目1番43号		
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 20 日	開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21 年 12 月 4 日	評価結果決定日	平成 21 年 12 月 24 日

(ユニット名)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所としての理念である、家庭的な雰囲気や日常生活の延長上にある心豊かな介護を目指し、サービスを提供しております。。当施設は、市内の中心地にあり、恵まれた環境の中で地域住民との交流を大切に、地域に開かれた施設を目指しサービス提供に努めております。介護実践においては、利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念として家庭的な雰囲気や日常生活の延長上にある心豊かな介護を目指す事を掲げ、平成12年に酒田市中心部に開設した。特に法人主催の研修会は、回数・頻度も多く、市の担当者を講師に招く等、内容が多岐に渡り、意欲のある職員がスキルを高め理念の実践に繋げる環境が整っている。また、地域との交流は盛んで、日常的に相互交流が図られており、防災について協力体制も構築されていて、地域に根ざし、理念の実践に向け、日々サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームページなどで、事業所の内外に理念を発進して、職員が日々実践している。毎日の申し送りやケースカンファレンスなどにおいて話しをしている	理念は、職員や事業所を訪問する方にも見えるよう玄関等に掲示している。職員は理念の重要性を認識し、カンファレンスや会議の中で繰り返し確認を行うことで、理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のふれ合いの会に月1回利用者と職員が一緒に参加して交流したり、事業所で行う月一回のふれあいサロンに地域の方々から参加していただき、相互に交流している	地域の清掃活動等に積極的に参加すると共に、自治会が主催するふれあいサロンに参加したり、法人が主催する毎月のふれあいサロンに地域の方の参加を積極的に促す等、日頃から地域との活発な交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設に遊びに来ていただき、認知症の方と接していただく。また、認知症高齢者疑似体験教室を開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において地域の方々との意見交換を行い、高齢者などの暮らしに役立つ話し合いをおこなっている。月一回職員家族会合同研修会を開催して、意見交換をおこなっている	市職員、地域包括支援センター職員、民生員、家族、利用者等の出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。会議では、事業所からの状況報告だけにとどまらず、防災やインフルエンザ対策等の意見の交換や、カンファレンスに対する考え方の質問をうける等、双方向的な会議になっており、サービスの向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小・中・高・大のボランティア、職場体験学習の受け入れを行っている。又、ホームヘルパー2級課程講座を開催し、実習を受け入れている。	定期的に開催する運営推進会議や研修会、市の連絡協議会を通じて情報の共有を図る他、運営について疑問や困難事例が生じた際は、その都度連絡をとり協働して事態の解決を図る等、協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	内部研修において身体拘束をしないケアについて学び、取り組んでいる。日中玄関に鍵をかけない。(夜間は鍵をかけることを家族に説明している)徘徊は必ず職員が同行し、玄関に出入りが分かるチャイムがついている。自治会との連携をとり、自治会行事にも積極的に参加し、グループホームを理解していただいている。	事業所に身体的拘束の排除のための方針を掲示したり、研修会で禁止の対象となる具体的な行為について周知を図ることで、職員は、拘束のない安全な介護を常に意識している。玄関にはチャイムを付けているが、外出したい利用者については職員が見守りや付き添い等で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の研修会において、高齢者虐待防止関連法について学習する機会を持ち、事業所内で虐待が見過ごされることがないかなど、話し合いをおこなってその防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の職員から事業所に来ていただいて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者い話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、利用者や家族などに十分な説明を行い、不安や疑問な点を尋ね、十分な説明を行い同意を得て押印してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の窓口にて苦情に関する相談の案内を掲示して、日々利用者の苦情や不満に対して取り組んでいる。苦情に対して速やかに対応して改善に取り組んでいる。介護相談員が来所している	面会時や運営推進会議、家族会の開催等、意見を表せる機会を積極的に設ける事で要望等を把握し、運営に反映させている。重度化した利用者の家族より、可能な限り一人にせず共用スペースで過ごせるよう要望があった際、直ぐに対応した事例があった。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総会や3か月に1回のケアカンファレンスや月一回の内部研修、所長主任かいぎを開催して、意見交換をしその意見を運営に生かしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容など管理者、職員と共に運営者も話し合っている。職員の提案や悩みを聞き、向上心を持って働けるように努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加すると共に日常的なOJTを実施している。また、毎日の申し送りや活動の中で指導・指示を行っている。月一回の研修や3か月に一回のケースカンファレンスを行っている。代表理事及びスーパーバイザーがおる	法人は毎月様々なテーマの研修会を行うと共に、職員の希望やスキルに応じて外部研修への参加も行われている。また新任の職員についてはベテランの職員が指導しながら一緒にサービス提供を行う等、働きながら学べる環境を整えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と交流するネットワークがあり、そこで勉強会や情報交換、交換実習などを行ってサービスの質を向上目指す取り組みをしている。酒田市サービス連絡協議会の入所部会に参加している	酒田市介護サービス事業者連絡会やスクラムチャレンジ2009の事業へ参加し情報交換を行っている。また、交換実習等も行われており、他事業所との積極的な交流の機会を確保している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式を用いアセスメントを実施し、できる限りいままでの環境に近い設定をしている。自立度の高い方については共に環境構築をおこなっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にセンター方式を用いアセスメントを実施し、できる限りいままでの環境に近い設定をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が必要としている支援を見極め、必要であれば包括支援センター、担当の介護支援専門員、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴の中でできることを見つけ、職員が教えてもらったり助けてもらったりしている。(調理のしたごしらえなど)また、一緒に買い物に出かけ、好きなものを選んでいただいている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を作りグループホームを理解して頂いている。各研修(内部、外部)やふれあいサロンのお知らせをしている。散歩、外泊、外食等家族と連絡して随時行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重し、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、いつでも散歩や電話などができることを説明して支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティ活動や家事活動などを一緒に行って、利用者同士が関り合い支えあって、家族のような関係になっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、訪問、通所介護の利用の相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴やライフスタイルを尊重し、家事活動や洋服選びなどは本人の希望に添って、職員の介助は最低限のものととどめている	アセスメントはセンター方式を活用し、希望や意向等を詳細に把握し、現状に即した意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な利用者には、家族からの情報の他、表情、しぐさ等から本人の思いを汲み取り、サービスの提供に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境を理解して、サービス利用の経過などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて一人ひとりの人格を尊重して、現状を把握して、そのひとに合った暮らし方の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が全員参加して、3ヵ月に一回ケースカンファレンスを行っている。アセスメントに基づいて、本人主体の目標を立て、本人や家族や関係者と話し合っ介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを基に、ケースカンファレンスの中で職員の意見を聞きながら検討し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護記録を個別に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにいかしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防などはあらかじめ施設を理解していただき緊急時には協力を得ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と事業所との関係を築きながら、本人の希望を尊重した適切な医療を受けられるよう支援している。受診時には経過や状態をまとめた報告書を主治医や家族に提出している	事業所独自に受診時連絡表を作成し、日々の生活状況や健康状態を主治医に報告したり、受診内容について家族に報告する等、事業所、家族、主治医が常に情報を共有出来る仕組みを整備している他、毎週健康状態を確認する等、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員と相談しながら、日常の健康管理や医療活用を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報提供を行い、退院時に備えてカンファレンスを開いて連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	センター方式にて入所時に本人や家族の希望を聞いて、話し合い全員が方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意思を確認するだけでなく、事業所として出来る事と出来ない事を明確にし、医療関係者と共にチームとしての方針を共有している。これまで、看取りを行った事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して、利用者の急変や事故発生時にそなえ、全職員が定期的に初期対応や応急手当の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震や水害などの災害時に、日頃から地域の方々から協力をえられるように働きかけている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねるような、言葉づかいをしないよう配慮している	プライバシーに関する研修会を行っている。職員は、トイレや入浴の誘導等日々のかかわりの中で常に言葉遣いなどプライバシーを損ねないよう対応し、また個人情報に関する記録等もプライバシー保護を意識しながら管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のペースに合わせてと行動できるよう、時間をゆっくりと活動している。又、洋服選びや家事活動などでは本人の希望に添って職員の介助は最低限にとどめている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、その日をどのように過ごしたいか本人の希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族と相談して衣服を整えている。外出時は特におしゃれにきをつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節の物を入居者と相談したり、おやつ等と一緒に購入したり作ったりして好みを取り入れている。又、入居者、調理師、栄養士、介護職員で献立会議を行っている。	献立は法人による管理の下に決められているが、利用者の希望を取り入れられる仕組みも作っている。食事は買い物から片付けまで一連の流れを利用者の状況に配慮しながら一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスは調理師が中心となり把握している。野菜中心のしょくじで、栄養バランスの整ったしょくじを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの口腔ケアを実施して、状態に応じた支援をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者に応じて排泄チェック表を用いて、排泄リズムを把握できるようにしている。自尊心を傷つけないように、何気ない声かけ誘導にて排泄を促し、自立支援を行っている	24時間排泄アセスメントを活用して排泄のリズムやタイミング等を把握し、出来るだけ自立して排泄できるように支援している。トイレ誘導の際はさりげなく声掛けを行う等プライバシーへの配慮もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事や便秘予防のための乳製品を取り入れている。また、食事形態を入居者一人ひとりに合わせた状態にしている。嗜好品については一緒に出かけて買い物をしている食生活を行い、水分補給を行いね規則正しい生活をして便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	予定表はあるがバイタルの状態を考慮し、入居者の意思を確認してから個別入浴を行っている。判断が困難な時は、看護師ね医師に相談している	利用者の希望や状況に応じて入浴の支援を行っている。入浴をしたがらない利用者には声かけ等工夫することで入浴の支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に生活リズムを整えている。日中の活動内容を考慮して随時休息を入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬の目的と用法や用量、副作用について理解し、服薬の支援と症状の確認に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティ活動として書道、調理、茶道、塗り絵、軽体操などを状況に合わせて実施市職員が共に活動し喜びを分かち合っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、買い物や散歩などで外出をして支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、季節に応じて花見に出掛ける等、戸外に積極的に出るよう支援している。また、馴染みの商店へ食材の買出しに出掛ける等、ただ外出するだけではなく、利用者の希望に応じて外出する事を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を管理したり、家族と相談してきめている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に職員が電話してつなぎ、本人が直接話しをできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人が使い慣れた物を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している	共用空間は季節感のある飾り付けや、利用者の作品等を飾りつけ、生活感のある落ち着いた空間となっている。居間は座敷にコタツ、食堂にはテーブルを配置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫されている。また、冬期間、廊下にヒーターを設置し、快適に過ごせる細かい配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心して過ごせるように環境を整え、気のあった物同士で会話やテレビなどを楽しんでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人が使い慣れた物を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みものを持ってきてもらうよう利用者、家族等に働きかけている。それぞれの部屋は、タンスや小物など数々の持込があり利用者の好みのものが生かされていて居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関スロープ、階段の手すりねトイレの手すり、浴室の段差を解消した。		